

=====

暴力先輩 (2019 年公演予定の長編劇作の為のパイロット版短編)

=====

私…フジタマコト(試演版配役)

暴力先輩…イグロヒデアキ(試演版配役)

●スマホ

私:スマホを操作しながら歩いている人、いますよね。

私、ちょっとだけ、歩きスマホを試してみる

私:危ない。ダメ、絶対。ですが、世の中には、わざと「そういう人」に「ぶつかって行く人」というのが一定数います。

先輩、出て来る

先輩:(キョロキョロと歩きスマホの人を探す)…あ！(歩いて行って、ぶつかる)うおおっと！…っ痛ッテ…こら！危ねえだろ歩きスマホ！…ったく、俺じゃなかったら、死んでたぞ

私:…本来は起こらなかった事故をわざと引き起こして、社会に対して注意を喚起し、より大きな事故を防ぐための「正義」を行っている。本人はそう信じています。そういう「正義」はソーシャルなネットワークと相性が良く、

先輩:(スマホを操作しながら歩き)歩きスマホの女がいたから、ぶつかって注意喚起なう。(自分のスマホで自撮り)…よっしゃ 100 いいねついた！

私:あたかも自分の行為に対する賛同者が、世の中にたくさんおり、自分という存在は世間一般に広く受け入れられているんだ、と勘違いするわけですね。

先輩:ああー、俺は今、世間一般に広く受け入れられている

私:世の中には目的が正しければ何をしてもいいと思ってる人がおり、それは時に大小様々な暴力となって人々を脅かします。今、先輩がやってるのは、そういうことなんじゃないですか？

●電柱の前

夕暮れ

電柱の影に隠れて様子をうかがう先輩と私

先輩:何が言いたい？

私:「地獄への道は善意で舗装されている」ってことです。

先輩:その地獄へ落ちるのは、誰だ？

私:さあ…先輩じゃないですか？

先輩:お前と一緒になら、おれはたとえ地獄で紅蓮の炎に(焼かれてもかまわない)

私:いやですよ

先輩:じゃあ、どうしたらいいんだ！

私:帰りましょう

先輩:イヤだ！

私:帰ってご飯食べてあったかくして寝ましょ？

先輩:もうこうするしかないんだ！店長のアパートに忍び込んで、盗聴器とカメラをしかけて、2人がにやんにやんしてる証拠を暴き出し、警察とか店長の奥さんとかバイト先の人みんなに

私:それ、もう犯罪に片足突っ込んでちゃってますよ

先輩:馬鹿やろう…両足だあ(泣)

私:そんなことして、先輩になんの特があるんです？

先輩:損得でこんなことできるか！…純粋な正義、…ああー(泣)

私:好きだったんですね、その、山田ちゃん？のことが

先輩:やばだじゃーん…(泣)なんで、俺じゃだべばんばよー

私:いやいや、その子未成年なんでしょ？高校生

先輩:そうだ。17歳…めっちゃ可愛い、ちっちゃい、いい匂い、あといい匂い

私:うわあ…

先輩:それを、よりによって、あのハゲ…(くーっ！)

私:いいじゃないですか、別に。本人達が幸せなら

先輩:いいもんか！れっきとした犯罪だぞ！東京には青少年健全育成条例というのがあって、18歳未満の児童と

私:だって、先輩も告白したんでしょ？

先輩:した！一生分の勇気を振り絞って！

私:だめですよ、振り絞っちゃ

先輩:それなのに…やばだじゃーん…ああー(泣)

私:いやいや、ある意味、助かったじゃないですか。万一上手く言ったら、先輩も犯罪者ですよ

先輩:そうか…助かったのか！つまり、山田ちゃんは俺のために、俺を助けるために…俺のことは生理的に無理ですごめんなさいチクショー！あのハゲ！やばだちゃんとヤッてんのかクソー！

私:もう、先輩の気持ちがまっすぐ過ぎてつらいです。

先輩:馬鹿野郎！元はと言えば、お前のせいだろ！

私:ええ？

先輩:お前が俺をちゃんと慰めないから！

●私①

先輩のこの体たらくが私のせい…とは思ってもみない話でした。ですが「人格とは、間違いを指摘された時に現れる品格のことである」と物の本にあります。先輩の後輩である私に、非はなかったのか。一応、遡って検証してみることにします。今から数時間前、「すぐに来てくれ」という呼び出しを受けた私は、西武新宿駅近くにある、某全国チェーンのハンバーガー屋さんで、先輩の話を聞いていました。

● マック

先輩: はあー、俺はダメな男さ

私: だめですね

先輩: でもな、俺思うんだ。俺は、困った事があるといつも、こうしてお前を呼び出してしまふ…なんだろうな

私: あ、それはですね。先輩が、他に友達がいないからですよ

先輩: そう！俺には、お前しか友達がいないからなあ…

私: え？私達、友達だったんですか？

先輩: と…友達じゃないの？

私: はい…(意味ありげに)私、先輩のこと、ただの友達だなんて思ってません

先輩: おっと(何かを期待して)、これは…もしかして、フラグか？フラグ…なのか？

私: (曖昧に首をかしげるような、うなずくような、笑顔)

先輩: おいおいおい！やべえな…なんだよ、ピンチかと思ったら、チャンスかよ！(店員がとおりかかったので、)あ、店員さん。マックシェイク2つ

私: マックって、そういう仕組の店じゃないですよ

先輩: そのようだな

私: で、結局なんの用なんですか

先輩: つまりあれだ、俺は今日お前に…慰めて欲しいわけだ

私: はあ

先輩: 「慰める」って、わかるか。

私: まあ、はい

先輩: 漢字で書けるか？

私: 従軍慰安婦の慰

先輩: うん、まあ、そう

私: 先輩は、今、私に「俺の慰安婦」になれと言っている

先輩: 言っていない

私: 問題になりますよ

先輩: 言い方の問題だ

私: 大使館の前に私の銅像を立てて

先輩: 言ってない

私: 勝手に立てないでください

先輩: 立てるのお前サイドだから

私: じゃあ、賠償金ください

先輩: なんでも金か！？いくら欲しいんだ！

私: この店、奢ってくれるだけでいいですよ

先輩: いいだろう！(先輩面、ドヤ顔をする)

私: …普通、こういう時は言われなくても奢りですけどね、先輩先輩だし、私女の子だし

先輩: /V1！バカめ！それ、日本だけだから！他の国だと、それ、女性差別だから！

私: え、そうなんですか？

先輩: そうだ。特別な関係でもないのに、ただ年下の女子ってだけで奢ろうとするのは、欧米じゃ差別だと、むしろ女の方がキレル案件だ

私: (意味ありげに首をかき上げていきながら) 私は…先輩と私は特別な関係なんだと思ってましたよ…

先輩: だから、奢るっつってんだろ

私: あ、そっか。で、なんでしたっけ？

先輩: 俺の慰安婦になれって話だ

私: そんな話でした？

先輩: ああ。フジタ…お前、俺の彼女になれ！

私: ええ？

●私②

私: 「俺の彼女になれ」と「慰安婦になれ」をほぼ同じ意味で使うような人間が現代に生き残っている事にも驚きましたが、これまでずっとただの先輩後輩という関係が続けてきた私に対し、シェイクの一つも奢らず、どうしてそんな荒唐無稽を命令口調で言ってくるのか…私としても、聞き返さずにはられません。

●マック②

私: え、どうして私が先輩の彼女にならなきゃいけないんですか？

先輩: 理由ならある

私: 聞かせてください

先輩: お前が、俺の事を好きだからだ！

私: ……

先輩: ふっふっふ、黙った！凶星だなー！

私: ……(目が合っていたが、やがてゆっくりうつむいていく)

先輩: ノイノイ！…どうしたフジタ？うつむいて。可愛い顔がだいなしだぜ？

私: ……グー(こっくり、こっくり)

先輩: 寝てる！？

私: あ、すみません。寝ちゃってました。そ、なんの話でしたっけ？

先輩: お前が俺を好きだって話だろ

私: グー(こっくり、こっくり)

先輩: 嘘寝やめろ！

私: はい

先輩: ったく、どんな照れ方だよ(ニヤー)

私: 別に照れてません

先輩: 嘘だ！もう、言い逃れできないぞ、お前は俺が好き！

私: どうしてそう思うんですか？

先輩: ノイノイ！どうして？だって、おかしいだろ？今日だってこんな、俺みたいなどしようもないクズにつきあって、

私: あ、どうしようもないクズっていう自覚はあったんですか

先輩: 電話一本でこんな迷惑千万な男の面倒を見に駆けつける…そんな物好きがいるか？いや、いない！

私: なるほど

先輩:高校出てから何年経つと思ってんだ?ただの後輩ってだけでこまでするわけないだろ

私:わかりました。確かに、わたしにも、誤解を招くような行動があったみたいです

先輩:ようやく観念したか

私:はい、これからは先輩が泣きながら電話をかけてきても二度と相手にしません。それでは、さようなら、お元気で(帰ろうとする)

先輩:待て待て待て

私:まだ何か?

先輩:スィット・ダウン(やたら良い発音で。椅子を指さしながら)

私:(座らないで、不思議そうに見ている)

先輩:いや、座って

私:はい

先輩:いや、わかるぜ?フジタ。今までずっとただの後輩と先輩でやってきたんだ。それを今日からいきなり「彼氏と彼女でござい!」と言うのは、ちょっとばかし抵抗がある。当然だ

私:ござい

先輩:そこでだ!優しい俺は、お前に大義名分を用意してやる

私:大義名分…なんですか?

先輩:金だ!

私:お金

先輩:金を払おう!お前は金のために俺と付き合う

私:いや、それ、ほんとの慰安婦じゃないですか

先輩:違う!あくまで建前だ!本音を言えないお前のために、俺の金力(かねりよく)で、お前の素直さを買う!どうだ!

私:どうだと言われましても…

先輩:金で解決しないことは、絶対に解決できないって島田紳助が言ったぞ(と言って、財布を差し出す)

私:お財布ごと?

先輩:ああ。金は貴重だが、手放す時にしか役に立たない

私:お断りします!(と言って、財布を受け取り自分の鞆にしまう)

先輩:返せ!

私:はい(返す)

先輩:まったく…強情な女だ

●私③

私:歌舞伎町近くのマックで、慰安婦だの金を払うだの島田紳助だのと話していたら、さすがに外聞が悪い…ということで、天気もいいことですし、私達は、新宿駅の大ガードを越えて、都庁の目下にある新宿中央公園に移動することにしました。まばらな人混みの間をぬい、私と先輩は手を繋いで歩きました。

●公園

2人、手をつなぎながら歩いている

私:いや、まあ、でも。わかりましたよ、先輩の言いたいことは

先輩:お？マジか？

私:はい。先輩は、私のことが好きで、私と付き合いたい。だけど、そう口にするのがあまりに恥ずかしいので、無理にでも私が先輩を好きだということにして、私と付き合おうとしている。高校生だったら、可愛いと思えるかもしれませんが、いい年した男のすることじゃありませんね。控えめに言って卑怯です。

先輩:おいおいおい、待て待て待て。

私:待ちましょう。

先輩:お前、何か勘違いしているな！俺は、お前のことなんか別に、なんとも思っちゃいないぜ！

私:それが彼女にしたい相手に言う言葉ですか

先輩:言う言葉さ！俺は、今、例の山田ちゃんの一件で深く傷ついている！だから、もう、誰でもいいから付き合いたい気分なんだ！

私:なるほど。だけど、わたしは誰でもいいから付き合いたいとか言ってる人とは付き合いたくないです

先輩:だが、お前は俺のことが好きだ！

私:何か証拠でもあるんですか？

先輩:ある！これはなんだ？(繋いでる手を)

私:なにって。先輩が泣いて頼むから、つないであげただけじゃないですか？

先輩:という体(てい)だろうが？

私:体(てい)？

先輩:お前がなかなか素直にならないから、俺が泣いて頼むことで仕方なく…という形にしてやったんだろ

私:ものは言いようですね…

先輩:キスでもするか？

私:(ひっぱたいて、)殴りますよ？

先輩:そういうのは殴る前に言えよ

私:殴りますよ？(と、言ってからひっぱたいた)

先輩:そう！ってか、まだ何もしてないだろ

私:言葉の暴力でした

先輩:だったら、俺は唇の暴力で、(キスするぞー)

私:(ひっぱたいて)暴力に暴力で返したら、憎しみが連鎖するだけです。断ち切っていきましょう。

先輩:なんだ、この一方的な力の暴力。アメリカか！

私:抑止力です。(と言ってから、キスを待つ顔)

先輩:え？…なんだそれ？

私:見ればわかるじゃないですか

先輩:わかる、わかるが…明らかに罠だろ。進めば、殴られる！

私:そういうところですよ

先輩:は？

●私④

私:ザ・煮え切らない態度の先輩と、それ以上公園を歩いてもしようがありません。特に用がないなら、日のくれないうちに帰りましょうということで、私たちは西武新宿駅までもどり、西武新宿線にのり、先輩の家がある最寄り駅で降りて歩き、先輩の家にやってきました。

●部屋

手をつないで2人、ドアを開けて入って来た

私:ガチャ、お邪魔します、へえー、なかなかきれいにしてるじゃないですか、意外です。

先輩:おい、フジタ

私:なんでしょう？

先輩:お前、やっぱ、俺の事好きだろ？

私:だから、なんでそう思うんです？

先輩:ここはどこだ？

私:先輩の部屋です

先輩:そして、これは？(繋いだ手)

私:繋いだ手と手

先輩:どう言い逃れする気だ！

私:いや、だって先輩と一緒に来てくれなきゃ死んじゃうって、泣いて頼むから

先輩:馬鹿野郎！妙齢の女子が、頼まれただけでホイホイ男の家についてくるもんか！

私:事実来てるじゃないですか

先輩:間違いが起こったらどうする！

私:後で訂正しましょう

先輩:取り返しのつかないことが起こったら

私:具体的には？

先輩:お前を…犯す！

私:犯罪ですよ？

先輩:じゃあ、金を払う！

私:それも犯罪です

先輩:じゃあ、もう一体、お前は、俺のことをどう思ってるんだ！

私:先輩こそ、私のことどう思ってるんです？

先輩:質問に質問で返すんじゃねえ！

私:失礼しました。では、(口にチャック)

先輩:なんだ、それ？

私:……(口にチャックしてるので、しゃべれません)

先輩:答えろ！

私:沈黙もまた答えなり。…あ、しゃべっちゃいましたね

先輩:ぐ、ぐうふ…(泣)くそ、くそー、お前まで、俺を馬鹿にしやがって…(泣)

私:え、ちょっと、泣かないでくださいよ

先輩:だって、おかしいだろ、こんなの…絶対。

私:何がです？

先輩:好きでもない男に急に呼び出され、待ち合わせて食事、公園を手つなぎデート、あわよくばキス…と思いきや家に直行…こういうのなんて言うか知ってるか

私:なんて言うんです？

先輩:彼氏彼女だ！

私:いや、でも私、そもそもその山田ちゃん？にフラれたのを慰めるために呼ばれたんですよね？

先輩:そうだ！

私:その舌の根も乾かなくうちに、わたしを彼女にできないと思うんですが

先輩:俺を常識のはかりではかるな！

私:すみません

先輩:お前は、やばだじゃんフラれて、もうダメだ、立ち直れないと思ってた俺に指した一筋の光なんだ。もうこの先モテることなんてないと、絶望していた俺の前に現れた、唯一付き合えそうな手近な女！

私:言葉

先輩:頼むフジタ、ちょっとだけでもいい、慰めるとして、俺の彼女になってくれ！

私:お断りします(と言って、先輩を抱きしめる)

先輩:…なんじゃこりゃあー！

●私⑤

私:…というのが、今日私が先輩にあってから、ここに来るまでの一部始終ですが。振り返って検証してみても、今の先輩の悲惨な体たらくが、私のせいだとはとても思えません。やはり、先輩の勘違いじゃないんですか？

●再び電柱の影の2人

先輩:いいや、違う！

私:違いますか

先輩:違うね！いや、今のお前の話を聞いてむしろ確信に変わった！お前は確信犯だ！

私:確信犯で言葉の使い方間違ってますよ

先輩:上げてもない揚げ足を取るんじゃないか！いいか、こう見えても俺は、女心ってやつに敏感なんだ。だから、分かる。さっきまでのお前の話をまとめるとこうだ。「先輩のことなんて全然好きじゃないんだからね！勘違いしないでよね！」

私:おっしゃるとおりです

先輩:だろう。つまり…フラグが立ちまくってるわけだこのツンデレ無表情女

私:ツンデレ

先輩:いいか、フジタ、俺は、今日、お前を必ず彼女にして帰る！

私:どうやってです？

先輩:告白する！！

私:なんと。…先輩にしては、なかなか面白い冗談ですね。

先輩:冗談じゃねえ！お前はこう言いたいんだろう？「私に好きって言って欲しかったら、まずアンタから好きっていいなさい！」。よくわかったぜ

私:……

先輩:へっ黙ったな。…どうした、顔が赤いぜ

私:夕日じゃないですか？

先輩:強がんなよ

私:…仮にですよ、仮に、その先輩の理論が間違っていたとして

先輩:そんな事をお前が言い出す時点で理論は正しい！

私:…間違ってたとして、今から、私に告白してフラれてもしたら、先輩、その後は誰に慰めてもらう気ですか？

先輩:なっ…

私:この先、一生、先輩が誰にフラれても、もう誰にも慰めてもらえなくなっちゃうんですよ

先輩:…それは、困る！

私:でしょう？

先輩:じゃあ、どうしたらいいんだ！

私:帰りましょう。帰ってご飯食べてあったかくして寝ましょ？

先輩:イヤだ！もっとポジティブに考えろ！こんなきっかけで始まる恋があってもいいだろ！

私:どこに恋するきっかけがありますか

先輩:恋は「する」もんじゃねえ…「落ちる」もんだ

私:地獄と一緒にですね

先輩:そう！お前と一緒になら、俺はたとえ地獄で紅蓮の炎に(焼かれてもかまわない)

私:いやですよ

先輩:舐めてんのか！

私:舐めてません

先輩:舐めろ！

私:いやです

先輩:そうか…フジタ！

私:はい

先輩:俺はお前のためなら、どんな高いハードルもくぐり抜けてみせる！

私:越えてください

先輩:フジタ！

私:はい

先輩:俺はフジタが好きだ！だから、お前も俺が好きだと言え！

私:…だが断る

先輩:フジダァァァァァァァァァァ(号泣)

私:ああ、ああ

先輩:何故だああ

私:何故だもないと思いますけど

先輩:何故、俺のことを好きだと言わない！

私:好きじゃないからですよ

先輩:ぐうふう

私:じゃ、わたし帰りますね(と、言うが帰ろうとしない)

先輩:(大地に向かって)クソ！好きじゃないって言うなら、好きじゃないって言うなら、あの思わせぶりな態度は一体なんだったって言うんだよ！

私:そんなの…大好きだってことですよ

先輩:はあああああ？

小粋な M がかかる

私、スケッチブックを持ってきて、音楽にあわせてめくる

スケッチブック「『暴力先輩(仮)』」

スケッチブック「2019 年 NICE STALKER 本公演にて」

スケッチブック「上演予定です」

スケッチブック「(たぶん)」

了